

輸出事業計画

※申請者名：(株)橋口水産、(株)HASHIGUCHIAQUACULTURE

品目：養殖ブリ

1. 輸出における現状と課題

【輸出における現状】

水産養殖・水産加工品メーカーである。主にブリを中心とした長崎上五島で養殖業を営んでおり、2017年に新長崎漁港京泊で水産加工処理施設を新設し、2017年に対米、2019年に対EUのHACCP認証を取得。

現在、毎週2～3回、毎回約500Kg冷蔵ブリフィレ・ドレスを高級飲食店用に米国へ、その他、ブリ活魚毎年約300tを韓国へ、冷凍ブリフィレを中国・EUなどへ飲食また小売り用に輸出しており、冷凍ブリフィレの年間輸出数量は約100～150tである。

また、ジェトロの事業を活用し、シーフードショーや、オンライン会議に積極的に参加することで、現地でのニーズの把握や販路開拓などによる輸出量の増加を図っている。(図1参照)

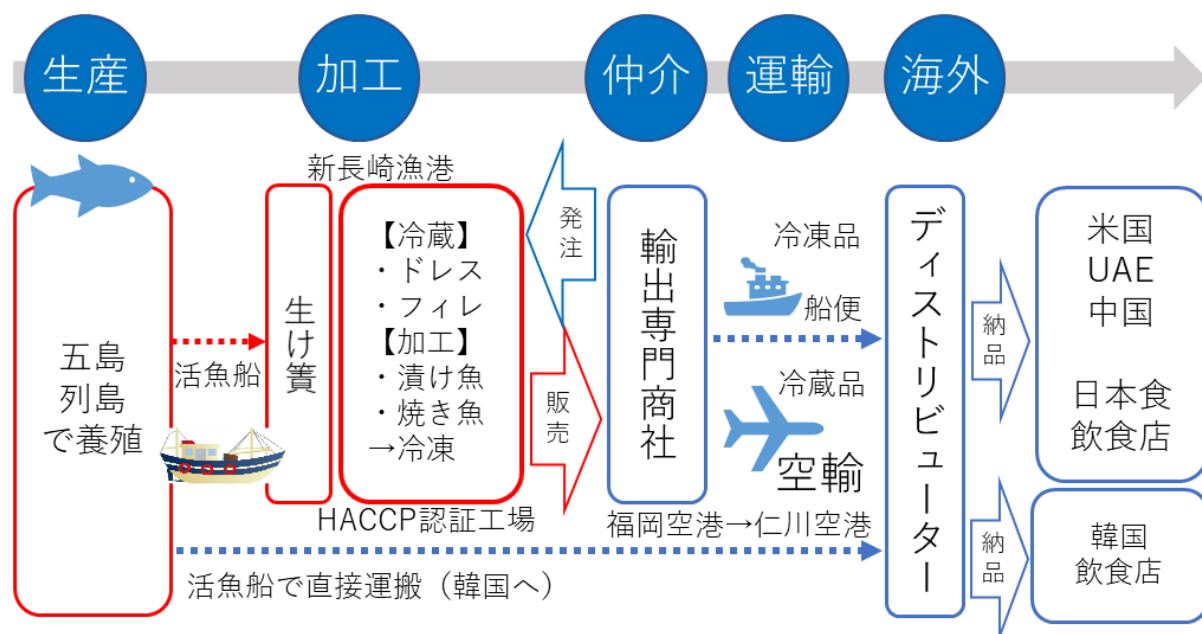


図1 養殖ブリ輸出体制図

【輸出における課題】

- ・ 海外の品質ニーズ（褐変抑制、賞味期限2年）に対応可能な加工機器整備や輸送ルートの確保
- ・ 本社養殖場の原魚生産量が需要に答えられない。
- ・ 輸出増量による、本社養殖場の増産するために、効率的な給餌作業の実施が必要になる。

輸出事業計画

※申請者名：(株)橋口水産、(株)HASHIGUCHIAQUACULTURE

品目：養殖ブリ

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組内容】

- ・ 適正養殖可能数量の見直しや、人工種苗の導入等も見据えた増産体制の構築（漁場再編や新規取得及び生簀の増設）等により、輸出向けに5万尾を確保（図2 参照）
- ・ 漁船導入緊急支援事業（浜の活力再生広域プラン関係）により養殖作業給餌船を新規導入し、モイストベレット作成量や冷凍餌積載量の増、1生簀あたりの給餌時間短縮、漁場までの往復回数の減により作業効率向上を図り、燃油使用量の減少も見込む。
- ・ 国の補助事業を活用し、急速冷凍機器を導入し、ニーズに対応した商品を増産。（図3 参照）超低温コンテナの輸送体制が充実している釜山港までの輸送方法及び積込出来る現地通関業者又は委託先を模索する。

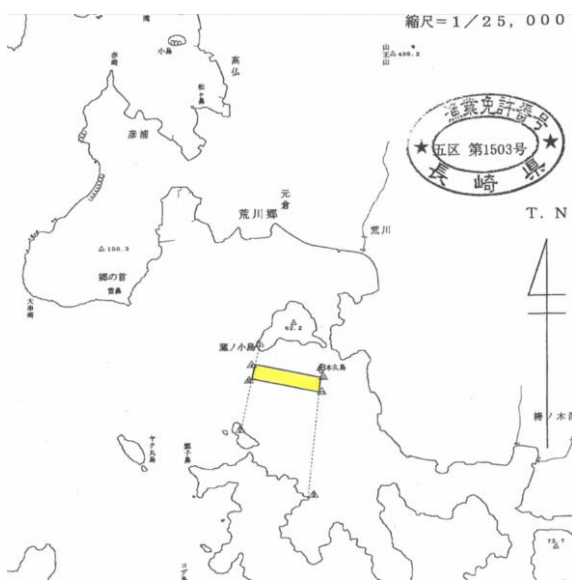


図2 増産のための拡大漁場



図3 課題に対応した施設整備

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

【PDCA実施体制】

輸出事業計画の実証と計画の見直しを行うため、国の機関、独立行政法人日本貿易振興機構、コンサルタント、輸出の専門家などの輸出事業に関する知見を有する者と連携して、PDCAサイクルを回せる体制を整備する。（図4参照）

輸出事業計画

※申請者名：(株)橋口水産、(株)HASHIGUCHIAQUACULTURE

品目：養殖ブリ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

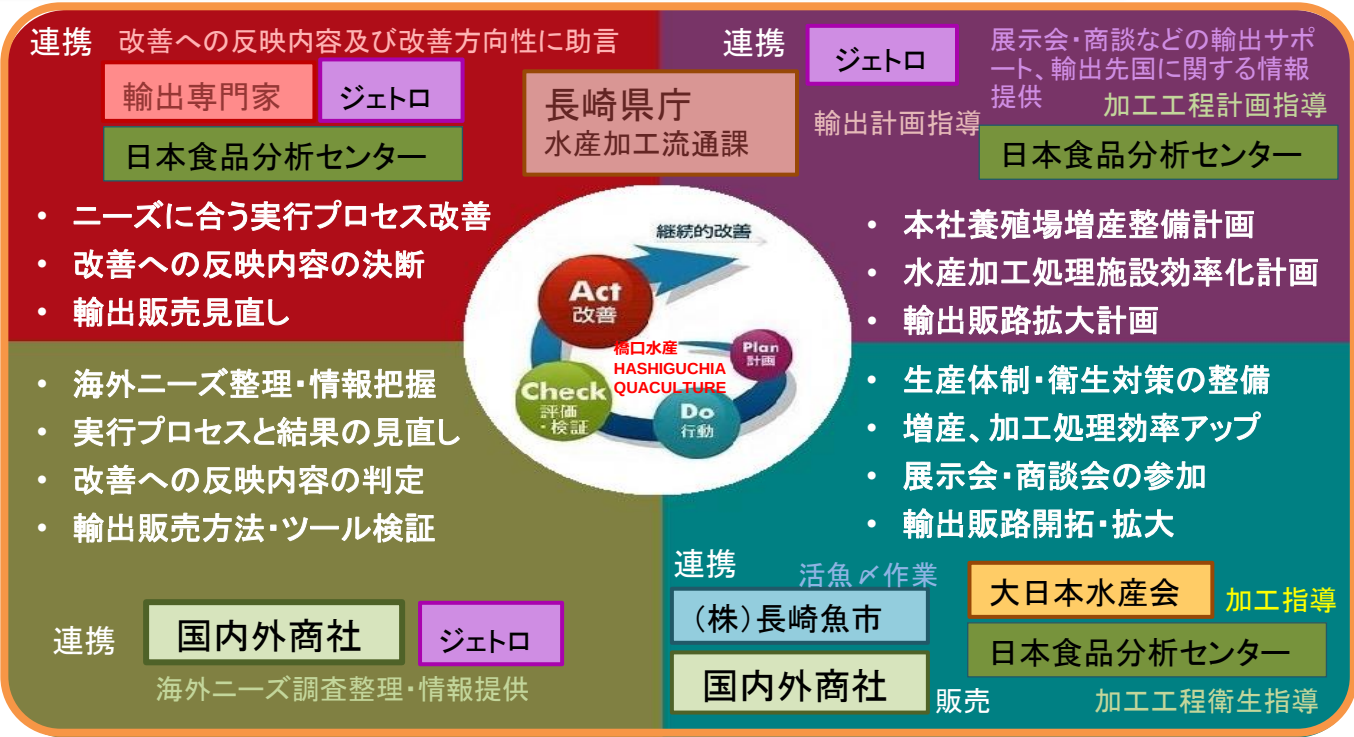


図4 PDCA実施体制

4. 輸出目標額

現状値について、2019年度を採用した理由は、コロナ影響を除き、本来輸出額最も反映できる、直近4年のうち年間輸出額が最大となる年度の令和元年度のブリフィレ輸出額である。

		現状値 (令和元年度)	目標年 (令和9年度)	備考
長崎地区 (全計)	総輸出額 (千円)	573,029	886,716	
	総輸出量 (t)	528	768	
	総生産量 (t)	805	1,171	
輸出先国ごとの詳細				
米国	輸出額 (千円)	190,294	266,819	冷蔵・冷凍フィーレ 冷蔵ドレス
	輸出量 (t)	121	172	
EU	輸出額 (千円)	3,664	10,991	冷蔵・冷凍フィーレ
	輸出量 (t)	2	11	
中国	輸出額 (千円)	89,328	264,763	主に冷凍フィーレ
	輸出量 (t)	57	169	
韓国	輸出額 (千円)	272,000	326,400	主に活魚
	輸出量 (t)	340	408	
UAE、台湾	輸出額 (千円)	17,743	17,743	UAE:冷凍フィーレ 台湾：漬け魚
	輸出量 (t)	8	8	

表1 輸出する養殖ブリの現状及び目標